

# まちむら主催 全国廃校活用セミナー開催のお知らせ

## 2019全国廃校活用セミナーin秋津野ガルテン

日時 2019年10月4日(金曜日)～10月5日(土曜日)

場所 秋津野ガルテン交流棟(和歌山県田辺市)

主催 一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構

後援 田辺市、和歌山大学食農総合研究所、農業法人株式会社秋津野

まちむら交流きこうでは、農山漁村地域の活性化とコミュニティの再生を図ることを目的に、廃校活用に関わる方々、行政職員、廃校活用に関心・興味のある地域住民や学生、団体、企業等の幅広い層の方々のご参加のもと、全国各地にて全国廃校活用セミナー(2012～2018年/計17回/参加者約900人)を開催しています。

今年度は、平成30年度第16回オーライ！ニッポン大賞グランプリを受賞し、廃校を活用した地域づくりのトップランナーとして走り続ける「秋津野ガルテン」(旧上秋津小学校/和歌山県田辺市)を会場に本セミナーを開催しますので、是非、ご参加ください。

### <10月4日(金曜日)>

12:00～13:00 ◇開場・受付

13:00～13:10 ◇開会

13:10～14:20 ◇事例報告Ⅰ「シラハマ校舎」(旧長尾小学校/千葉県南房総市)

・講師 多田 朋和/合同会社WOULD代表

・講師 多田 佳世子/白浜社中代表、合同会社WOULD社員

14:20～14:30 休憩

14:30～15:40 ◇事例報告Ⅱ「BABAME-BASE」(旧馬場目小学校/秋田県五城目町)

・講師 柳澤 龍/一般社団法人ドチャベンジャーズ代表理事

15:40～15:50 休憩

15:50～17:00 ◇事例報告Ⅲ「秋津野ガルテン」(旧上秋津野小学校/和歌山県田辺市)

・講師 木村 則夫/農業法人株式会社秋津野代表取締役社長

17:30～19:30 ◇交流会(情報交換等)

### <10月5日(土曜日)>

09:00～10:30 ◇分科会(パネルディスカッション)

分科会Ⅰ「廃校活用運営検討部会」

・司会 岸上 光克/和歌山大学食農総合研究所副所長

分科会Ⅱ「廃校活用リノベーション検討部会」

・司会 畠山 徹/一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構業務第一部参事

10:30～10:45 休憩

10:45～11:20 ◇全体会

11:20～11:30 ◇閉会

## ◇事例報告Ⅰ「シラハマ校舎」(旧長尾小学校/千葉県南房総市)



- 開設時期:2016年10月オープン(2011年3月旧長尾小学校閉校)
- 開設主体:合同会社WOULD(2010年設立/南房総市より土地建物を借り受け)
- 事業目的:旧校舎(廃校)をリノベーションし、「働き、耕し、泊まり、憩う」新型コミュニティセンターを創り出す
- 事業内容:●シェアオフィスの運営、●コワーキングスペースの運営、●ゲストルーム(宿泊施設)の運営、●レストランカフェの運営、●無印良品の小屋の管理運営、●研修生の受入等
- 施設概要:旧小学校校舎(木造平屋建て/延床面積1,098㎡/1952年築)、旧幼稚園校舎(木造平屋建て/延床面積369㎡/1962年築)、無印の小屋×13棟(木造平屋建て/延床面積9㎡/新設)

## ◇事例報告Ⅱ「BABAME-BASE」(旧馬場目小学校/秋田県五城目町)



- 開設時期:2013年10月オープン(2013年3月旧馬場目小学校閉校)
- 開設主体:秋田県五城目町
- 設置目的:地域活性化を図るため新たな事業の創出を支援するとともに、地域産業並びにコミュニティー活動の育成及び振興に寄与する
- 運営主体:一般社団法人ドチャベンジャーズ(2018年設立/2019年4月より指定管理)
- 事業内容:●移住・定住・起業に関する情報発信・広報事業、●移住希望者の発掘・移住検討の機会創出事業、●仕事や暮らしの体験機会創出事業、●チャレンジしたい人の起業支援事業、●町内の就労機会情報の収集・提供事業、●新しいチャレンジに取り組む企業の商品事業開発・販促支援事業
- 施設概要:旧小学校校舎(木造二階建て/延床面積2,347㎡/2000年築)、旧保育園校舎(木造平屋建て/延床面積322㎡/1991年築)

## ◇事例報告Ⅲ「秋津野ガルテン」(旧上秋津小学校/和歌山県田辺市)



- 開設時期:2008年11月オープン(2006年3月新設移転のため旧上秋津小学校閉校)
- 開設主体:農業法人株式会社秋津野(2007年設立/田辺市より土地建物を買い上げ)
- 事業目的:農と地域資源を活かし、グリーンツーリズムで都市と農村の交流を行い、ソーシャルビジネスを推進することで地域課題の解決をはかり持続可能な地域の活性化につなげていく
- 事業内容:●食育・食農教育事業、●農家レストラン事業、●宿泊事業、●オーナー蒔事業、●貸し農園事業、●地域づくり研修受入事業、●田舎暮らし支援事業、●ICTオフィス運営事業
- 施設概要:旧小学校校舎/体験棟(木造二階建て/延床面積1,200㎡/1953年築)、レストラン棟・宿泊棟・IT棟(新設)

- ◇募集人数 50名(要申込/定員になり次第募集締切)
- ◇参集範囲 廃校活用に係る実践者、検討者、行政職員、その他廃校活用に関心のある方等
- ◇参加費用  
・セミナー参加費 一般5,000円、学生3,000円  
・交流会費 4,000円(食事・飲み物) ※希望者のみ  
・宿泊費 5,000円(1泊朝食付) ※希望者のみ
- ◇支払方法 事前振込(当機構指定口座に振込)
- ◇募集方法 事前申込(当機構HPより申込書をダウンロード、FAXにて送付)

<https://satomono.jp/tour-seminar/26922/>

### 【問合せ先】

一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構業務第1部グリーン・ツーリズムチーム  
〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町45 神田金子ビル5階  
TEL: 03-4335-1983 FAX:03-5256-5211 E-mail:haiko@kouryu.or.jp

## ◇事例報告Ⅰ「シラハマ校舎」(旧長尾小学校/千葉県南房総市)



<講師> 多田 朋和/合同会社WOULD代表  
1977年生まれ。香川県出身。千葉工業大学工業デザイン科を卒業後、インテリア関連会社に入社し、店舗内装設計などに携わる。その後、実家の不動産業を手伝うために帰郷。一般的な不動産業に飽き足らず、「不動産やインテリアを生かした新しいビジネスができないか」と再び千葉へ戻る。2010年3月、「合同会社WOULD」を設立。南房総市においてホテルの社員寮として使われていた空きビルをシェアハウスやゲストルーム、カフェを併設した複合施設として「シラハマアパートメント」をオープンする。その後、市が廃校になった小学校(旧長尾小学校・幼稚園)の利用案を募集していることを知り、シラハマアパートメントの機能に無印良品の小屋などを組み合わせた事業プランを提出し、コンペを勝ち抜く。2016年から改修工事を進め、同年秋に「シラハマ校舎」をオープンする。



<講師> 多田 佳世子/白浜社中代表、合同会社WOULD社員  
1976年生まれ。千葉県南房総市(旧安房郡)白浜町出身で旧長尾幼稚園・小学校の卒業生。津田塾大学学芸学部英文学科を卒業後、外資系金融会社にてオンライントレードの商品設計、セールス、マーケティング業務等に従事する。2014年会社の早期退職制度に応募し、わがまち白浜へリターン。2017年に白浜社中を起業し、「シラハマ校舎」内にあるコワーキングスペース「AWASSELVES」(アワセルブズ)の運営を開始する。

## ◇事例報告Ⅱ「BABAME-BASE」(旧馬場目小学校/秋田県五城目町)



<講師> 柳澤 龍/一般社団法人ドチャベンジャーズ代表理事  
1986年生まれ。東京都出身。東京大学大学院を卒業後、IT関連会社に入社。その後、2014年に秋田県五城目町へ移住し、「五城目町地域おこし協力隊」として着任。「五城目町地域活性化支援センター BABAME-BASE」(旧馬場目小学校)を拠点に、村の概念をひっくり返す「シェアビレッジプロジェクト」の立ち上げや高齢社会をデザインする「AkitaAgeLab」の設立に参画。1次産業と伝統産業のコンサルティング、高校生と地域の未来を描くソーシャルラボ、秋田公立美術大学アートマネジメント育成プログラムの五城目プロジェクトのコーディネーターなどを担当する。2017年11月、五城目町内の土着企業、個人が集まり、五城目町における起業・就業や移住の促進と自立の支援を目的に、「一般社団法人ドチャベンジャーズ」を設立。2018年4月より、「五城目町地域活性化支援センター BABAME-BASE」(旧馬場目小学校)の指定管理を担っている。

## ◇事例報告Ⅲ「秋津野ガルテン」(旧上秋津小学校/和歌山県田辺市)



<講師> 木村 則夫/農業法人株式会社秋津野代表取締役社長  
1955年生まれ。和歌山出身。17年間勤務した大手の農業機械販売会社を退職後、家業の農業を継ぎミカン、柑橘、梅を栽培・販売する専業農家となる。また、地元のJA紀南青年部パソコン班の一員として、農業にICTを生かそうと農業情報利用の研究および先進的農家との情報ネットワーク化を図り、1998年には仲間と和歌山県で第10回農業情報ネットワーク記念大会を催すなど、農業での情報利用・発信の大切さを訴える活動にも携わる。1999年、柑橘と梅の産地である秋津野地区有志で秋津野直売所「きてら」を開設。セット商品の販売、加工品の商品開発、地域外応援団の活用等の知恵で営業危機を乗り越える。2006年、「きてら」の年商1億を契機に「農業法人株式会社きてら」として法人化し、事業の継続性を高める。2008年、旧小学校校舎を活用した都市農村交流施設「秋津野ガルテン」の整備に伴い、地域内外から出資を募り、「農業法人株式会社秋津野」を設立する。

## ◇分科会/パネルディスカッション



<運営検討部会/司会> 岸上 光克/和歌山大学食農総合研究所副所長  
1977年生まれ。兵庫県出身。和歌山大学経済学部卒業後、大阪府立大学大学院農学生命科学研究科、関西計画技術研究所、田辺広域市町村圏健康・観光産業クラスター推進協議会を経て、2013年より独立行政法人水産大学校専任講師に着任。その後、2016年4月、和歌山大学が地方創生に向けた新たな地域資源を創造するための附属機関として設置した食農総合研究所に着任する。専門は、地域づくり戦略論、食品流通論、都市と農山漁村の交流・協働。著書として、「廃校利活用による農山村再生(著者:岸上光克、監修:小田切徳美)」が2014年度に筑波書房より出版されている。



<リノベーション検討部会/司会> 畠山 徹/一般財団法人都市農山漁村交流活性化機構参事  
1960年生まれ。東京出身。日本大学文学部卒業後、民間の建築設計事務所、コンサルティング事務所勤務を経て、財団法人ふるさと情報センターの客員研究員として出向。2001年、農水省所管の交流事業を担う三団体の統合に伴い、新たな組織として誕生した財団法人都市農山漁村交流活性化機構のプロパー職員となり、グリーン・ツーリズム関連の調査研究や計画策定支援の業務に携わる。現在、業務第一部グリーン・ツーリズムチーム参事として、廃校活用をテーマとするセミナー開催やWEB開設による情報提供、講演等の業務を行っている。